

「日本デー」(ドイツ・デュッセルドルフ)に出展しました

■日本デー概要

デュッセルドルフは、ドイツの北西部に位置する人口約 60 万人の都市です。多数の日本企業の駐在事務所があり、日本人が多く暮らす街としても知られています。

日本デーは日本文化を紹介する場として、2002 年から始まりました。日本企業や現地の事業者、交流団体などが多数の展示・販売ブースを出展し、ステージでは日本に関わる音楽や舞踊などのパフォーマンスが披露されます。アニメやコスプレといった、日本のポップカルチャーに関心を持つ若者などが多数来場し、ドイツでは最大、ヨーロッパでも有数の、日本文化紹介イベントになっています。また、日本デー開催日の近辺では、日独の経済シンポジウムや、博物館における日本関連の展示会など、多くの関連行事も開催されます。



(日本デー開催日の市内
ショップのディスプレイ)

イベント名	第 14 回デュッセルドルフ/NRW 日本デー
日時	2015 年 5 月 30 日 (土)
場所	ドイツ・デュッセルドルフ市 ライン川川辺 (ブルク広場から芝生広場/州議会前まで)
主催者	Japan-Tag Düsseldorf/NRW e. V. (デュッセルドルフ日本商工会議所、デュッセルドルフ日本クラブ)
参加者数	約 65 万人 (主催者発表)
ホームページ	http://www.japantag-duesseldorf-nrw.de/



(会場の様子)



■当事務所出展内容

昨年に引き続き、各自治体提供のパンフレットやポスターをつかって日本の地域を PR するとともに、訪日旅行についてのアンケートを実施しました (アンケート結果は別紙のとおり)。当事務所ブースには 400 人以上が来場し、予定よりも早くパンフレットがなくなってしまうほどでした。



(当事務所ブース)



■来場者の反応・印象

- ・日本に行ったことのない人が多く、ゴールデンルート以外の観光地についてはよく知らないことが多い。
- ・東京や京都から日帰り旅行のできる場所、桜・紅葉を見るのに適した時期や地域、歌舞伎が見られる場所、日本食が食べられる場所などについての質問があった。
- ・パンフレットについては、表紙に、その地域ならではの風景や建造物など訴えたいものを絞ったうえで、大きく載せているものが手に取られやすい。特に日本デーは、日本に関連することに広く関心のある人や、今まで日本を訪れたことのない人が比較的多い印象があり、そのようなイベントでは、表紙が抽象的なデザインだったり、様々な風景や建造物を数多く並べていたりするものは、手に取ってもらいにくいと感じた。
- ・イベントの来場者として若い人が多いためか、表紙や表面にキャラクターのイラストが載っているパンフレットやチラシも人気があった。
- ・ドイツ語のパンフレットはあればよいが、英語のパンフレットでも特に問題はない。
- ・アンケート協力者へお渡しした、自治体提供グッズの中では、ティッシュやボールペンなどが人気。携帯ストラップやポストカードなどはそれほど人気がなかった。

■自治体出展情報

日本の自治体では、千葉県と福島県がそれぞれ単独で参加していました。

福島県は復興の状況について伝えるとともに、地域の産業や伝統工芸、特産物について情報発信を行っていました。

千葉県は 2005 年以降、デュッセルドルフ市と交流を行っており、交流 10 周年にあたる今回の日本デーのオープニングセレモニーには森田知事が参加しました。ブースでは友好の歴史や交流の様子が紹介され、マスコットキャラクター「チーバくん」も登場しました。



(福島県ブース)



(千葉県ブース)